

# 五条川(八曾地区)生物調査結果報告書

(魚類、甲殻類、貝類、水生昆虫類)

## 1. 調査概要

調査場所: 五条川(八曾地区)  
愛知県犬山市押出(犬山・八曾自然休養林内)

調査日時: 平成24年11月11日(日) 10:00~15:15

天候など: 曇りのち雨、気温11℃、水温10℃

調査方法: ①魚取り網(玉網)による捕獲  
②釣りによる捕獲  
③素手による採取(貝類、甲殻類)  
④目視観察  
⑤デジタルカメラによる撮影記録

参加人数: 9名

役割分担: 魚類担当:西垣、山川、本堀  
甲殻類:加藤、本堀  
貝類:加藤、本堀  
昆虫類(水生)担当:山川、本堀  
昆虫類(陸生)担当:堀場  
哺乳類担当:加藤  
鳥類担当:秋山、古久根  
植物類担当:杉岡、鈴木、堀場

### 調査当日のタイムテーブル

10:00	入鹿大橋手前のスペースに集合
10:00-10:30	ベース設営、調査前の打ち合せ
10:30-12:30	生物調査
12:30-13:00	昼食のため、新郷下橋下へ移動
13:00-14:30	昼食、午前中の調査結果を報告
14:30-15:00	入鹿池湖畔の鳥類、植物を観察
15:00-15:15	後片付け、事務連絡、西垣座長講評
15:15	現地解散



## ●調査ポイントの概要



### ★五条川

五条川は岐阜県多治見市の高社山を源流とする庄内川水系の1級河川。八曾山の南方を流れた後、入鹿池に一旦流入し、再び流れ出た後、清須市とあま市の境界付近で新川に合流する。

今回の調査ポイントは八曾山の南西の辺りで、付近には湧水も見られる。水深は浅いものの水質は良好で、清流を好む水生生物が多く観察された。水際植物も多く、自然度は高い。



調査ポイントの全景



川の横には棚田が広がる



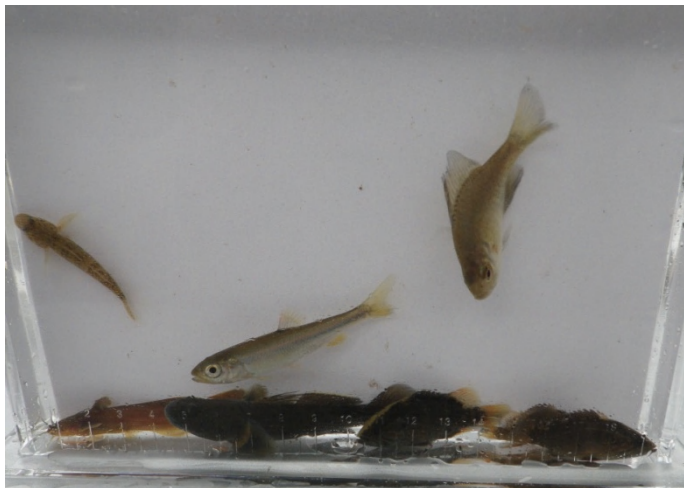
水深は浅いが、水際植物は豊富

## 2. 調査の様子



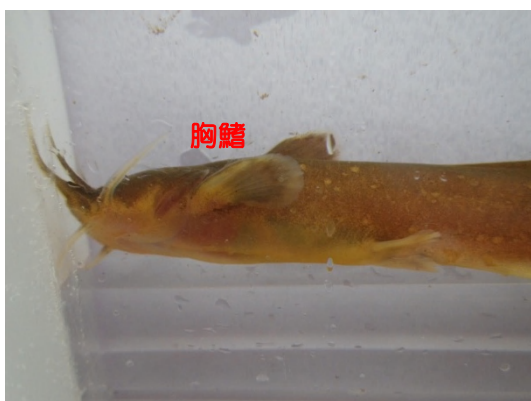
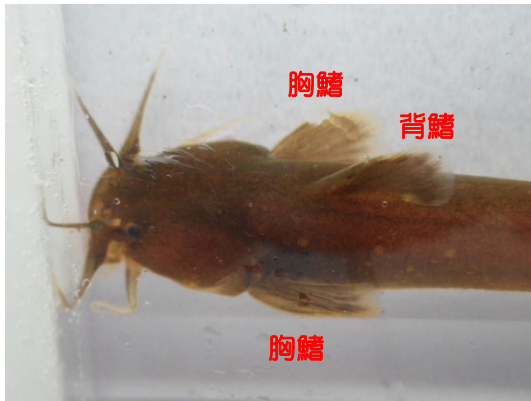
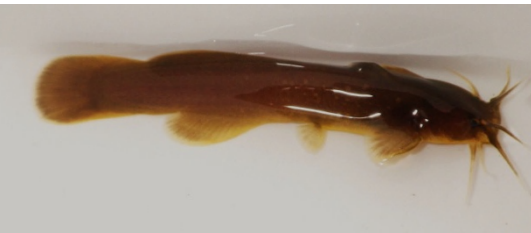
### 3. 調査結果

#### ●採取された水生生物の一部



No.	写 真	名 称 ・ 分 類	備 考
魚 類			
1		<p style="text-align: center;"><b>カ ワ ム ツ</b></p> <p style="text-align: center;"><i>Nipponocypris temminckii</i></p> <p style="text-align: center;">コイ目 コイ科 ダニオ亜科 カワムツ属</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•能登半島と天竜川以西の本州、四国、九州に分布。ただし、アユの放流に紛れて東日本にも分布を広げている。</li> <li>•国外では、朝鮮半島、中国、台湾に分布。</li> <li>•オイカワやヌマムツより水質が良く、流れの緩やかな環境を好む。</li> <li>•動物植生の強い雑食性で、小魚や昆虫に加え、藻類や水草も捕食する。</li> <li>※オイカワは草食性が強い。</li> <li>•オイカワと交雑し、“オイカワムツ”を生じるが、ヌマムツとは交雑しない。</li> <li>→カワムツA型が“ヌマムツ”として独立。</li> <li>•カワムツの胸鰭や腹鰭の前縁は黄色に染まるが、ヌマムツでは桃色に染まる。</li> </ul> <div style="text-align: center;"> <p style="color: red;">カワムツの胸鰭や腹鰭の前縁は岐路に染まる</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>•多くの個体が捕獲された。また目視でも多くの個体が観察された。</li> <li>•また周辺水路において稚魚も捕獲され、河川内で繁殖している事が示唆される。</li> </ul>

<p>2</p>	 <p>第一背鰭の棘が糸状に伸びた個体</p>	<p><b>ヌマチチブ</b>  <i>Tridentiger brevispinis</i>  スズキ目  ハゼ科  ゴビオネルス亜科  チチブ属</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道、本州、四国、九州、香岐、対馬に分布している。</li> <li>・チチブよりも上流域の純淡水域を好むが汽水域にも進出する。</li> <li>・ヌマチチブ同定のポイントは、 <ol style="list-style-type: none"> <li>①チチブよりも頭部の白点が大きくてまばらである(正直、私には分からない…)</li> <li>②第一背鰭の棘は鰭膜と共に伸びる。 →実際には、チチブの様に第一背鰭の棘が糸状に伸びる個体も見られる(左下写真)。</li> <li>③第一背鰭の中程に2本の暗赤色の縦線が見られる。</li> <li>④胸鰭基部の黄色の横帯の中に橙色線が見られる(下写真)。</li> </ol> </li> </ul> 
<p>3</p>		<p><b>シマヨシノボリ</b>  <i>Rhinogobius sp. CB</i>  スズキ目  ハゼ科  ハゼ亜科  ヨシノボリ属</p> <p>※CB:Cross-Band type</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青森県以南の本州、四国、九州、南西諸島の河川中流域から下流域に分布。</li> <li>・南西諸島の個体群は他地域の個体群と遺伝的に異なる。→遺伝子汚染に注意!</li> <li>・雑食性で両側回遊魚である。</li> <li>・頭側部にミミズ状の赤い斑紋が見られ、胸鰭基部に三日月状の斑紋が2~3個並ぶ。</li> <li>・尾鰭基部にカモメ形の黒い斑紋がある。</li> </ul> 
<p>4</p>	 <p>八の字に分かれる  黒色の縦条</p>	<p><b>クロヨシノボリ</b>  <i>Rhinogobius sp. DA</i>  スズキ目  ハゼ科  ハゼ亜科  ヨシノボリ属</p> <p>※DA:Dark type</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉県、新潟県以西の本州、四国、九州、南西諸島の河川上流域から中流域に分布。</li> <li>・南西諸島の個体群は他地域の個体群と遺伝的に異なる。→遺伝子汚染に注意!</li> <li>・雑食性で両側回遊魚である。</li> <li>・体色は黒味が強く、体側中央に黒色の縦条が見られ、尾鰭基部で八の字に分かれる。</li> <li>・胸鰭基部には、三日月状の斑紋が1つある。</li> </ul> 



## アカザ

*Liobagrus reini*

ナマズ目  
アカザ科  
アカザ属

- 日本固有種。
- アカザ属の近縁種は東アジア、東南アジアに広く分布している。
- 秋田県、宮城県以南の本州、四国、九州に分布している。
- 水質の良い河川の上流域から中流域の礫の多い場所に生息している。
- 昼間は石の下や岩場の隙間に大人しく潜んでいるが、夜間や水が濁った時に水生昆虫などを捕食するために活動する。
- アカザの雌は5月から6月に石の下に寒天質の卵塊を産む。この卵塊は雄が守る。
- 水質の良い環境を好み、河川工事等で水質が悪化するとすぐに姿を消す為、河川水質(自然度)の生物指標種にされている。
- 生息環境の悪化のため、全国的に激減しており、環境省のレッドリストでは絶滅危惧II類(VU)に指定されている。
- 愛知県では準絶滅危惧に指定されている。
- アカザという名前の由来としては、体が赤茶色である事から赤背(アカゼ)と呼ばれていたものが、アカザに転訛したという説がある。
- また、背鰭に1本、胸鰭に1本ずつの毒腺を持つ鋭い棘(刺条)を持ち、これに刺されると痛い事から、赤刺(アカザス)と呼ばれていたものが、アカザに転嫁したという説もある。なお、アカザの漢字表記は現在も「赤刺」である。
- ナマズ目の中では頭部は小さく扁平である。また目が小さい事も本種の特徴である。
- 上顎に2対、下顎に2対の計8本の太い立派な口髭を持つ。

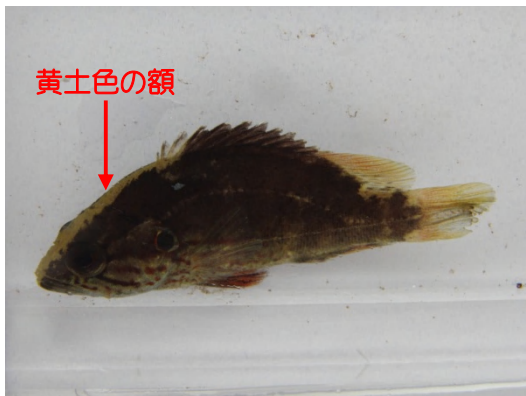




明色状態



暗色状態



黄土色の額



黄土色の額

## オヤニラミ

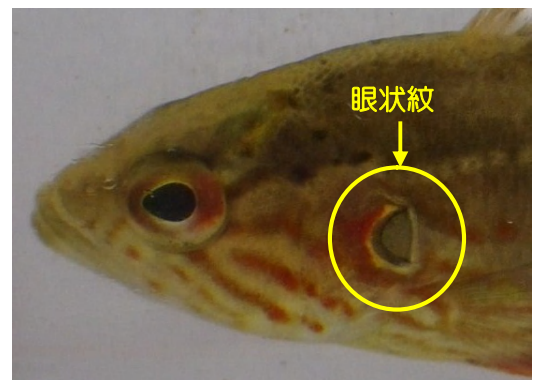
*Coreoperca kawamebari*

スズキ目

ケツギョ科

オヤニラミ属

- ・保津川・由良川以西の本州、四国、九州に分布している。国外では朝鮮半島南部に分布。
- ・純淡水魚で一生を河川内で過ごす。
- ・河川の中流域で、水が澄み、流れが緩やかな水草や抽水植物の多い浅い場所を好む。
- ・生息環境の悪化やペット用の乱獲などで個体数が減少している。環境省のレッドリストでは絶滅危惧II類(VU)に指定されている。
- ・縄張りを作り、単独で生活する。縄張りを侵すものには、激しく攻撃する。
- ・肉食性で好奇心が強く、動くものは昆虫、甲殻類、小魚など口に入るものは何でも積極的に捕食する。動かないものにはあまり興味を示さない。
- ・成長しても10cm程度、体は側扁し、体側に6~7本の横帯が見られる。
- ・鰓蓋の後ろには黄色に縁取られた眼状紋が見られ、目と眼状紋の間には放射状の赤い線が数本見られる。




眼状紋



横帯


- ・体は褐色であるが、明暗は精神状態などにより大きく異なる。しかし、黄土色に染まった額の色は変化しない。
- ・オヤニラミは本来、愛知県には生息していない種であり、五条川で捕獲された個体は人為的な放流されたものと思われる。

7		<p><b>ブルーギル</b>  <i>Lepomis macrochirus</i>          スズキ目          サンフィッシュ科          ブルーギル属</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北米原産の国外外来種。</li> <li>・外来生物法の特定外来生物に指定。</li> <li>・入鹿池には多く生息しているが、調査ポイントの少し下流には大きな堰があるため、入鹿池から遡上したとは考えにくい。従って、人為的に放流されたものと思われる。</li> <li>・稚魚を含む複数の個体が捕獲されたことから、調査ポイント付近に定着しているものと考えられる。</li> </ul>
---	--	---	--

**甲 殻 類**

1	 <p style="text-align: center;">青黒い体色の雄の個体</p>  <p style="text-align: center;">フンドシの形から雄である事が解る</p>	<p><b>サワガニ</b>  <i>Sesarmops intermedius</i>          十脚目          サワガニ科          サワガニ属</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本固有種。</li> <li>・青森県からトカラ列島の中之島まで分布しており、佐渡島や屋久島などの周辺島嶼での生息も報告されている。</li> <li>・純淡水性であり、一生を河川内で過ごす。</li> <li>・河川の上流域から中流域の水質の良い沢(サワ)に住むからサワガニ。</li> <li>・きれいな水を好むため、水質指標生物に選ばれている。</li> <li>・昼間は石の下などに潜み、夜や雨天時に活動する。冬季には川の近くで冬眠する。</li> <li>・雑食性で藻類やデトリタス、昆虫、魚の死骸など様々なものを捕食する。</li> <li>・卵の大きさは2mm程度と他のカニに比べて大きい。メスは数十個の卵を腹脚に抱えて保護する。卵の中で幼生は変態し、稚ガニの形で孵化する。</li> <li>・稚ガニの形で生まれるため、移動性に乏しく、遺伝的に分化しており、地域個体群ごとに体色などの変化が見られる。</li> </ul>
---	--	---	--

**貝 類**

1		<p><b>カワニナ</b>  <i>Semisulcospira libertina</i>          盤足目          カワニナ科          カワニナ属</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道南部から沖縄までの河川の上流域から中流域や湖沼に生息している。農業用水などの水路でも見られる。</li> <li>・淡水域を好み、流れの緩やかで、水温が低めの溶存酸素量の多い場所を好む。</li> <li>・雑食性でデトリタスや藻類、動物の死骸などを捕食している。</li> <li>・今回の調査では、五条川に面する棚田の水路で捕獲された。</li> </ul>
---	---	--	--

昆 虫 類

<p>1</p>		<p><b>オナガサナエ</b>  <i>Melligomphus viridicostus</i>                  トンボ目                  サナエトンボ科                  オナガサナエ属</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本固有種。</li> <li>・ヤゴは河川の中流域に分布し、石の下などで生活している。</li> <li>・同定の根拠としては、                         <ol style="list-style-type: none"> <li>①サナエトンボの仲間の体形。</li> <li>②触覚が長楕円形である。</li> <li>③腹部の側棘が第7～9節にしかない。</li> </ol> </li> </ul> 
<p>2</p>		<p><b>エルモン ヒラタカゲロウ</b>  <i>Epeorus latifolium</i>                  カゲロウ目                  ヒラタカゲロウ科                  ヒラタカゲロウ属</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成虫の羽根に「L」の模様が出る事に由来。</li> <li>・北海道から九州までの水質の良い河川の上流域から中流域の流れの緩やかな場所の石の表面に生息している。</li> <li>・汚染に弱いため、水質の指標生物となる。</li> <li>・幼虫時には石に付着した藻類を食べているが、羽化した後は何も食べない。</li> <li>・羽化時期は4月上旬から11月下旬。水中で亜成虫に羽化し、水面まで泳ぎ飛び立つ。</li> </ul>
<p>3</p>		<p><b>カミムラカワゲラ</b>  <i>Epeorus latifolium</i>                  カワゲラ目                  カワゲラ科                  カミムラカワゲラ属</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道から九州までの水質の良い河川の上流域から中流域の浅くて流れの速い場所に生息している。</li> <li>・幼虫の時期が長く(3年以上)であり、生存には良好水質と川床の安定が必要。川岸の植生や水源林を保全する必要がある。</li> <li>・幼虫は肉食性で小型の水生昆虫などを捕食している。</li> <li>・幼虫は褐色で、頭部にM字型の紋様が明確見られる事が同定のポイントである。</li> <li>・羽化時期は5月から8月。</li> <li>・カワゲラの仲間は幼虫のまま陸上に上がり、羽化する。</li> <li>・カワゲラの仲間は幼虫と成虫の形が似ており、羽の有無が異なる程度。</li> <li>・長野県の上伊那地方では、カワゲラやトビケラの仲間を“ザザムシ”と呼び、佃煮や揚げ物に調理して食用に供する。</li> </ul>